

ACT NEWS

エー・シー・ティー ニュース

こんにちは、ACTニュース編集部です。この号はACT小学校編として湯河原町にある3小学校(東台福浦・湯河原・吉浜)の5・6年生を対象に実施しているACTの活動内容をお届けしています。昨年度は新型コロナウイルスの影響で、予定されていた5年生1回目、6年生の2回目は、実施できなかったため、今年の6年生にとっては今回が初めてのACTとなりました。ACTってどんなことやるんだろうと緊張した人もいたと思いますが、みなさんのしんでくれたようで良かったです。

ACT NEWS 第7号 2021年3月発行 発行元：湯河原町教育委員会・特定非営利活動法人 まなびとくらし

ACTってなーに？ 小学校編

2014年度にスタートしたこのプログラムは「社会で人と人が関わりながら生きていくために欠かせないスキルを身につける訓練」という広い意味でのソーシャル・スキル・トレーニング (SST) として実施されてきました。2018年度からはアート・コミュニケーション・トレーニング (ACT) という名称に変更し、「人と人が関わりながら生きていくために」というテーマを引き継ぎつつ、湯河原町発のコミュニケーション教育のひとつとして進めていく事になりました。

ACTは「芸術を学ぶ」のではなく、アートを媒体、あるいはツールとして用いることによって、生きていくための力を芸術体験から自ら学ぶ時間です。

子ども一人ひとりが自分自身と向き合うパーソナルワーク。他者と協働しながら展開するペアワーク。正解のない課題に創造的・創作的に取り組むグループワーク。以上の領域で、コミュニケーションをテーマとする芸術体験を通じた学び＝ワークショップ型授業を実践しています。

この取り組みでは、試行錯誤や紆余曲折そのものをクリエイティブな行為として推奨しています。そこで生じる子ども一人ひとりのトライ・アンド・エラーを共感をもって支持し、それを創造性としてクラスや先生方と共有しています。

他者との比較による自信 (=優越感) ではなく、自己への信頼による自信を持てるようになること。「できるかどうかは分からないけれど、やってみる」。それを自分に許せるということ。言い換えると「失敗しても大丈夫」「失敗から学ぶこともある」と思えること。そして、そのような自分を容認できること。それらを繰り返していくことで自分自身に信頼感が生まれてきます。

では、いってみよう！

「うれしいってどんないろ？」



2020年9月23日(水)吉浜小 / 29日(火)東台福浦小 / 10月6日(火)湯河原小の6年生たち

本来であればみなさんにとってこの回は2回目のACTとなるはずでしたが、初回の5年生のACTが中止になってしまったので、みなさんにとってこれが初ACTとなりました。

今回は「うれしいってどんな色？」というタイトルで抽象画にチャレンジ。はて、抽象画とはどんな絵でしょう。具象画(静物・人物・風景等)のように何を描いているのかすぐわかる絵に対して、抽象画は目に見えないモノ(気持ち、音、思考等)カタチのないモノを描く絵のこと。つまり、実際に何かを見ながら描く訳ではないので、上手下手という評価はできないし、描くのも簡単ではありません(「実物」がないので)。

今回描いてもらうテーマは「うれしい」という気持ち。描く時のルールは、「点・線・面」だけで描くこと(猫・ハート等、形のあるものは描かない)。それだけです。うれしかったことを思い出したり、こんなことがあったらうれしいなあと想像しながらオイルパステルを使って描いてもらい、最後はみんなで鑑賞会です。

さて、みなさんどんなことを感じたのでしょうか。

- ・初めて自分の感じ方を自由にかいたけど、みんな違っておもしろいと感じました。1つの物のテーマを決めようと、いくら自由にかいていいよと言われても、「物」にこだわり、みんなちがう作品はできない。「物」にとらわれずにかくのがしんせんだった。周りを見ればみんなまったくちがう作品なので、この人はこういう感じ方をするんだな、と少しわかることができた。

- ・今日びっくりしたことは自分がかいたうれしいと他の人がかいたうれしいが全く違うことでした。そしてこのことからいつもは見えない他人の心が人それぞれなんだと思いました。

- ・絵とかいつもきれいにかこうとしているけど、今回の授業は見えない気持ちをかいたから、きれいにじゃなくて今思った気持ちをかいて、上手下手などなく、色をつかってやったのはふだんとちがうからちょっとストレス発散になりました。

- ・人によって気持ちの感じ方が全然ちがうなと思いました。かぶりのない作品だから大事にとっておこうと思いました。

- ・うれしいの色は何色でもないと思いました。理由は人それぞれちがうからです。

- ・絵というか、線をかきはじめたら保育園の時に戻ったみたいにかいて楽しかった。

- ・絵にあらわせて楽しかったです。そして他の人の作品を見てみるとかきかたや色づかいがとてもおもしろかったです。そして、自分の気持ちをかいているとき、とてもスッキリしました。うれしかったです。

(※感想は原文のまま記載しています。)

「耳をすますとわかること」



2021年3月1日(月)湯河原小 / 2日(火)吉浜小 / 5日(金)東台福浦小の5年生たちと。

はじめまして！の5年生。初ACTは「耳をすますとわかること」。聞くという感覚をめぐるワークショップです。最初のワークは「沈黙をつくる、静寂を聞く」。みんなで声も、音も立てない1分間をつくります。その間、できるだけ遠くの遠くの音、できるだけ小さい小さい音を耳で探していきます。その後、何が聞こえたかをみんなで話します。みんなが聞いていた音はなんだろう？わたしだけに聞こえてた音はあったかな？

みんなの耳の感度が上がったところで、グループに分かれて「GO OTO トラベル」。教室を出て、学校の中にある「おもしろいと感じる音」を探す、約20分の旅。こちらも最後にみんながみつめてきた音を紹介しあいます。

これらの体験からみんなは何を感じ、思い、考えたのでしょうか。感想を見てみましょう。

- ・耳をすませばおもしろく感じたし、音って本当に不思議だと思った。耳って大切なんだなとあらためてじっかんした。ものってどうやって音になるんだろうと思った。
- ・ふだん気にしていない音でも耳をすませばいろんな音が聞こえてくるんだなと思いました。なので気にしていない時でもいろんな音が聞こえてきているということなので、ふだん気にしない音でも音なので、音って不思議だなと思いました。
- ・音はとても不思議でおもしろいものだと感じた。なぜなら、他の人しか聞こえない音もあるし、自分しか聞こえていない音、または自分だけの音もあるから。音は心とつながっていると思った。音を聞けば心がいやされたり、すっきりしたりしたから。
- ・静かにすればいろんな音が聞こえるんだとこの勉強で知りました。いつも聞いていない音が静かにすれば聞けて心がきれいになったと思いました。自然の音はきれいだなーと思いました。
- ・グループで回っていたら自分だと気づけないような音が聞こえておもしろかったです。特にべんべん草の音が自分的にはいいと思いました。家でもいい音があるか探してみたいです。
- ・学校を回っている時に考えたのはさばくだったり、水の中だったらと、いろんな場所も聞いてみたいと思いました。

・最初に内野さんが話した「1回聞くのに集中すると耳が音によく反応する」というのを今日初めて知りました。そして耳をすますと今まで聞こえなかった音がよく聞こえるようになるんだなと思いました。明日登校や下校の時に、耳をすませば音が聞こえるかもしれないのでやってみたいと思います。そしてACTはこういう授業をするんだな、と思いました。

・いつも聞いているものがあるけど、よ〜く聞いてみたらこんな音だったんだと思いました。みんなで音を探して「聞いてみて」と言ったりしたのが、とても楽しく、おもしろかったです。ゆっくりしたい時にやってみたいです。

・ふだん聞こえていた音でも耳をすますませばもっと細かい音を聞くことができたし、けっこう遠くの音でも、小さい音でもわかった。みんなで移動する時、いろんな部屋に行くと、同じ音でも場所によってその音の大きさやひびきなどがけっこうちがった。

・音は人の声では100%あらわすことはできないんだな、と思いました。波の音もザザーンとは鳴っていない。

・目を閉じてしんげんに耳をすましていたら時間があっというまに過ぎていった。音の種類は無量大。まったく同じ音ってない。自分がならず音の方が多い。遠くを見つめながら耳をすました方が遠くの音が聞こえる。

・1分間、音を聞いているとき、外にいる人の音や、歩く音、車の音、いろいろきいてふしぎな感じになりました。よの中にはむげんに音があっておもしろいと思いました。目に見えない、むげんの音で、1分間音ださずにこんなにたくさんの音がかさなりあって、目をつぶればその音をそうぞうして、たくさんのたのしさがかさなりました。

・わたしは今日初めて1分間とか耳をすまして「音っておもしろいな」と思いました。なぜかという、いつも聞いているのに「この音すき」とか思わないけど、今日やってみて「この音いい」とか「この音好き」って思えて、うれしかったし、おもしろいと思いました。

・風でゆれた物の音とか、工事の音、学校の声、いろいろな音があって鳥の音や木のゆれた音とか自然の音が聞こえて楽しかったから、たまには耳をすませて音を聞きたいなと思いました。自然の音がいい音がして気持ちよかったです。

(※感想は原文のまま記載しています。)

「マシュマロ・チャレンジ」



2021年3月3日(水)湯河原小 / 8日(月)東台福浦小 / 9日(火)吉浜小の6年生たちと。

6年生2回目はマシュマロ・チャレンジ。グループで相談しながら仮説を立て、スパゲッティの建築物を作ります。そして、頂上にマシュマロを乗せ、その高さを測ります。ちなみにこれは世界中で行われているワークで、最高記録は99センチだそうです。

トライ・アンド・エラーをテーマに「上手くいくかわからないけど、まずはやってみよう」「上手くいかなかったらやり直そう」という小さな失敗と経験を楽しみながら積み上げます。

ここでは紆余曲折のプロセスそのものが「アートなこと」として見立てられます。共同作業ができるようになるスキルを与えるものでも、子どもたちの行為が目標を達成するための労働に還元されるものでもありません。これは自分たちの意思によって、自分たちだけの答えを探りながら見つけようとするワークショップ。プロセスそのものに価値があるのです。思考と緊張と笑顔に満たされた教室で、子どもたちは何を感じてくれたのでしょうか。

- ・もっと自分の意見をしっかり伝えた方がいいと思った。この授業で失敗からいろんなことを学ぶと言うのを学んだ。機会があれば自分で同じルールでやってみようと思いました。
- ・失敗するのはかっこわるいと思っていたけど、逆に失敗した方がこの後につながるものがあらためてわかった。
- ・チャレンジする前はなぞの自信があったけどやってみたらパスタは折れるしテープも弱くて思った通りにいかなかったけど協力した分たのしかったし、いい思い出になったのでよかったです。
- ・協力してできたと思った。終わってから「こうすればよかった」というのがありました。またやりたいと思いました。ふつうにっていうかめっちゃ楽しかったです。
- ・やるまえにさくせんを立てることは、大事なんだなと思いました。そして、何度も失敗してすぐたちなおるとかっこいいと思いました。
- ・やはり最初にしゃべった方がいいと思いました。
- ・マシュマロを食べたくなりました。
- ・最初はいけるかなと思ったけど意外にむずかしくて苦戦しました。でもたくさん失敗しても次はできると思います。

・今日は自分で思ったよりも失敗してなかなかうまくいかないんだと思った。だから次からは自分でなにかチャレンジするときは万が一、万が一のことを考えてのぞもうと思う。

・本当のひさしぶりのACTですごく楽しくてたくさん笑いました。コロナのえいぎょうもあってグループでの活動が少なかったからより楽しく感じました。パスタが折れてしまっても、倒れてしまっても、みんなで笑って、はげまして、45cmまでいけました。

・パスタがすぐにポキポキ折れるので、長くつなげられたのに1からやり直しになったとき、笑うしかありませんでした。めちゃくちゃ失敗したけど、怒らず、笑ってやりすごしていたので気持ちいいし、楽しかったです。最後はマシュマロだけを立てました。

・難しかった。考えるのも難しかったけど、立てるのも難しかった！班の人はどんだん案を出していたのですごかった！ゲームばかりやってるから、アイデアが全然なかった。次やる時はもっと頭を使いたい！

・楽しかった。パスタがたおれそうになったらほきょうしたり、いろいろなことをした。立ったマシュマロを見たときすごくうれしくて、やったー！がんばった！などの気持ちが出てきました。班の友達と仲を深められたような気がします。来年の6年生に伝えたいのは、まちがっても折っても責めない。チームワークを大事にミスしてもいいから何度でもトライ。全力を出して取り組む、です。

・様々な条件がある中で、どうやったらより高く、より丈夫に作れるかを工夫して考えることが楽しかったです。必ずしもこうしなければならないということはないので、いつもとちがう視点でみるのが大切なんだと感じました。また、小さな失敗を繰り返すことで、何かアイデアを得たり、工夫することをおぼえたりするので、とりあえずやってみる、やって無理だったら視点を変えてみるのが大切なんだと思いました。

・多くのグループは記録は出せなかったけど、いろいろ試したり、失敗したり、笑ったりしたので、とても楽しかったです。

・マシュマロの重さでブオンブオンになったから、次はブオンブオンにならないようにできたらいいです。

(※感想は原文のまま記載しています。)